

相談ネットワーク通信

No.72

2012.3.28(水)

子育て・教育なんでも相談ネットワーク 岡山市北区長門町4-64上之町ビル3F Tel・Fax086-226-0110

どうするの？ 児童・思春期の対策、対応は

国は「こころ」の問題に責任を持った対応をせよ

林友の会事務局長 中 島 守 明

は、日本をはじめとした先進各国で精神患者が癌や循環器疾患に比べても、最も高い政策的重
要度にある患者

今、国民の「こころ」は深刻な状況にあります。平成10年から毎年3万人以上の人々が自殺によって命をなくしており(岡山県では平成14年から350人、400人超えが続いています)、14年間連続です。また、メンタルでの受診者数は平成17年には、300万人以上、つまり40人に1人以上の人々が精神科を受診するようになり、今も増加傾向が続いています。

最近では、若者の自殺が急増しています。その要因は、競争社会の中での成果主義・就職難が若者

の生きる希望や夢を奪っているのかも知れません。

岡山県でも、精神障がい者手帳の所持者は年々増加しています。平成22年度では手帳所持者は7541人、患者数は国の平成20年度の調査で推計1000人に39人として推定されています。岡山県の人口に当てはめると6万8690人(入院患者1万6900人、外来5万8200人)と推定)となります。WHO(世界保健機構)の個人と社会がこころを損失した健康・生活被害指数(DAR)指標で

であることが、明らかにされています。国は平成20年度に自殺予防大綱を改正、その後、毎年新たな通知を出しています。

平成23年7月6日、厚生労働省は「四大疾患」と位置づけて重点的に対策に取り組んできた「癌、脳卒中、心臓病、糖尿病」に、精神疾患を加えて、「五大疾患」とする方針を決めました。糖尿病237万人、癌152万人に対して、精神疾患は323万人に上り、重

(2面につづく)

(1面のつづき)

点対策が不可欠と判断されたところでは、

精神疾患に関しては、ほかの障がい分野に比べ、人権・医療・福祉ともに諸外国より50年遅れているハンディがあり、精神疾患の症状による社会生活の困難さは、外から見えにくく、本人の生きづらさが理解されがたいことなどから、身体・知的の二障がいとは大きく異なっています。

知的障がい(精神遅滞)は医学上では精神(脳)の障がいですが、日本ではそうはなっていない三障がいの一つです。また、日本の障がい分類では、①広汎性発達障がい(先天的な要因による中枢神経障がい

で、代表的なのが自閉症障がい・アスペルガー障がい等がある)、②発達の部分障がいは(学習障がい・コミュニケーション障がい・運動機能障がい等がある)、③行動障がい(注意欠陥/多動性障がい等がある)となっています。

①②③は日本の障がいカテゴリーには、他の病気(鬱など)を併せもっていないと障がいとは認められません。今の日本の制度では、福祉的支援の対象外です。この子達が幼児期、学童期、青年期と生育する中で、家庭、学校で親や保育士・教職員を困らせ悩ませていきます。早期発見と適切な支援が必要なのは言うまでもありません。わたしたちは、「自立支援法違憲訴訟」

の和解の合意文書で、政府が約束した障がいに谷間のない「総合福祉法」をつくらせていくことが、自殺の予防、広汎性発達障がいへの支援の確立を実現する鍵だと考え、多くの市民・国民に呼びかけ、

運動を進めているところで、この問題を親や教育の現場任せでなく、当事者・親を支援する医療・心理などの専門職を含めた総合的な支援ネットワークの必要性を感じています。(なかしま もりあき)

子どもの本

『いじめと戦おう!』

玉聞伸啓/著 小学館 900円(本体価格)

著者は同書と同じ名前のホームページの管理人です。自身もいじめたり、いじめられたり体験者。自分の考えた、いじめられなくなる方法を伝えます。体験者の声もたくさん集めてあり、イラストが多く、手に取りやすくなっています。



記録する、笑顔トレーニングなどの具体的な方法のなかに、掃除を一生懸命にやるということも。実行した人の声から効果があることがわかります。いじめられている人の助け方、保護者のための項目なども、簡潔にかかれています。

わたしのひとこと

相談ネットワーク通信
を楽しみに読ませていただいています。2歳と1歳の3人の孫たちの幸福な将来の為に、まだまだ勉強を続けなければならぬと、自分に言い聞かせています。(H・I)

岡山県の教育のひどさは何なんでしょう。知事・教育長の本音が聞きたいと思うこの頃です。(A・Y)

4月以降、岡山理科大学科学ポランティアセンターに勤務しています。非常勤ではありますが、これまでの高校生達とはまた違った大学生と日常的に接しながらの毎日です。科学の授業や実験を、公民館や学校に「出前」する。そして、それを通して学生達にも、ポランティアリーダーとなる力を養っていくというのがミッションです。将来、教師になりたいという希望をもっている学生も多く、あらためて、これまでの自分を振り返りながらアドバイスをしています。(Y・I)

これから寒さに向かいます。皆様おからだをお大事になさって下さい。高2になった息子は、今、白ボット製作にはまっています。(N・O)

創立22周年、おめでとうございます。すこいことですよね!! 当日は都合で行けません。が、ご盛会、お祈りします。(M・M)

子ども達は働いています。社会の状況をもろにうけて、木・金が休みになり、土・日が仕事という事が夏にありました。賃金は上がらないようです。元気が何とかがなによりです。孫が中学に行くようになります。こちらが元気に行っています。先生によつていろいろあるようです。スタッフの皆さん、体気をつけて元気で、メッセージをいつまでも送って下さい。(M・H)

毎回ニュースは読ませていただいております。先生方のお力が多くの子どもや保護者の保護者の心を支えているのだとよく分かります。これからも健康には気をつけてご活躍ください。(A・I)

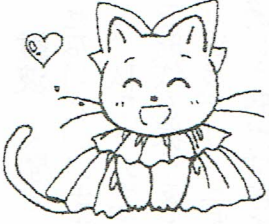
子育て上手はほめ上手。ホントですネ。(K・I)

がんばって下さい。(K・I)

温かい相談ネットワーク通信を心待ちにしています。(E・K)

1年があつという間に過ぎていくと感じる今日この頃です。難波先生の読みやすい温かい字の通信を読むとほっとします。今年のはじめに恩師の死があり、東日本大震災があり、本当に。命。について考えさせられた年になりました。今年も1年、支えていただきありがとうございます。寒さに向かいますが、ご自愛ください。(S・O)

ネットワークのニュースに、心の芯のところをいつも励ましています。(T・G)





おかやま朝まるステーション

難波一夫さん出演

2010年11月25日(木)、26日(金) ④

(2日目の2)



— お待たせしました。朝まるホットライン。お客様は、子育て・教育なんでも相談ネットワーク代表世話人、もう20年という。

難波 21年ですね。

— 21年になりますか。ボランティア活動、そして駆け込み寺ということ、岡山市北区表町一丁目の上之町ビルの3階で、今は事務所を開いていることですが、その20年の相談ネットワークの

足跡をしるした、これがまた分厚い2冊の、前半・後半に分かれてありますけれど。これは『相談ネットワーク通信』という形で毎回お出しになっておられる。

難波 私たちの中に奥田先生というのがいらっしゃる。その方が、ほんとに丁寧なこれを作る、エキスパートでやってくださったっているんです。

— 活動報告でもある。

難波 はい、活動報告でもあるし、私たちの歴史を字にして刻んできている、そういうものだと思います。

— その中に、No.39、2001年です。当時は丸の内1丁目に教育

相談ネットワークがありましてですけれども、難波先生「ぜったいに許せないこと」と題して、このようなくだりがありました。

『子どもをおだてて、なんでもいいというのが不登校を増やしつつづけている』はき違えた個性や自由が、子どもの権利の行き過ぎが不登校をうんだ。さらに、『自衛隊の人に聞くと、3ヶ月で間違って、かわる。シャキッとする。昔は軍隊がおとなへの通過儀式だった』。なんという暴言。

これは、時の文部科学大臣が記者団との懇談の席で話したというカギ括弧を紹介したうえで、「なんという暴言。学校へ行きたくても行けない子どもの苦しみや辛さがどれだけわかっているのでしょうか。このままでいけば、子どもたちの悲鳴や失望は、ますます大きくなっていくでしょう。いま、おとなたちは『なに』をなすべからずか。改めて問われています」と結んでいきます。

この「ぜったいに許せない」んだという、文部科学大臣の発言に対して憤りを感じますか。

難波 人間として許せないといえますかね。私たちの生きてきた時代を振り返れば振り返るだけ、二度とあそういう時代は迎えたくないし、子どもたちや

孫たちにどうあつてほしくないという思いが一番強いですね。だから、さっきの政治家の発言なんかは、そういうことが全然わからずに発言をしているよな思いがしてならないわねえですねえ。

私たちが戦時中に受けた教育は、ほんとうに分かってもらえないというか、あの苦しみ、例えば学校に配属将校というのがおりましてね、その方が校長先生よりもっと力を持って、先生の思想的な傾向とか、子どもたちの行動なんかをずっと監視をしている。教練という時間がありましてね、教練の時間には、戦陣訓、軍人に賜りたる勅諭、こういう

ものを暗唱して、それがちやんと見えなかつたら、上の学校に行けない。国語や数学よりは、はるかにこちらのほうが重く見られたし、先生方の中で自由な発言をしようと思つたその人たちは、ある日突然、教壇からおられなくなつたというようなことを、後々に思うこともあつたりしましてねえ。そういう体験があるだけに、なんとなく軽々しくいわれるぞういう発言はどうしても許せませんねえ。

—あの、これは昔のかり版という印刷の、

難波 はい。

—懐かしい…、学校からの連絡は必ず、インクの臭いがするわら

半紙でしたけれども、

難波 そうですねえ。

—その先生の文字なんです。ワープロの文字ではなく…。この文字のなかにやっばり、何と言うんでしょか、お人柄もさることながら気持ちや、やっばり文字というのは伝わってきますよねえ。

難波 そうですねえ。

—だからここへ、この「子どもの苦しみや辛さがどれだけ分かつているのか」という文字のなかに、「何という暴言」というこの文字のなかに難波一夫さんの思いが込められている。

難波 はい。

—全部これ、このように手書きでこしらえられてるんですか？

難波 これはねえ、実はワープロでいったん打ち出して、それで全体の校正をしましてね、そしてその校正の中で、割り付けをして、もう一度手書きになおしておられるんです。

—鉄筆で…。

難波 鉄筆で…。

—はい、いや…そうですね。

難波 すこい方で。もう、ほんとうに、改めて敬服をしている奥田先生という方がいらつしやいましたねえ。その方がほんとうにこう、私たち20年の同志としてやったださっているわけで

すけどねえ。ほんとに頭が下がります。これからもこれは続けていきます。

音楽始まる

—一息入れさせてください。「お好きな曲は何ですか」とおたずねしたら、この曲はお歌いになる曲のレパートリーの中の曲だそうですね。

「千の風になつて」

音楽 「千の風になつて」

2コーラス目からフエイド・ダウンして

—一緒に歌つていらつしやいました。この

(6面つづく)

(5面のごしゅ)

歌が流行って、「墓参り

行かないわけは千の

風」なんて川柳が生ま

れて、土曜日の早朝に

お送りしている「仏教

アワー」のお坊さんが

「いやいや、ちゃんと

ご先祖様はお墓で眠っ

ておいでになりますか

ら、ちゃんとお参りし

てくださー」と、改め

て呼びかけておいでに

なりました。ま、冗談

はともかくとして、素

敵な歌…

難波 いいですね

え。この声もよろしい

ねえ。ほんとに千の風

が吹きわたっているよ

うな感じがして、こう

いう世界にみないつ

かは入るわけで、その

日のために素敵な毎日

を積み重ねていつて、
どうなりたいと思いま
すねえ。

音楽II「千の風にな
って」フェイド・アッ
プ

——「おはようござい
ます。今朝も出勤中、
車でお聞きしていま
す。私の親父は数十年
前に亡くなりました
が、難波さんのお話
を聞いてると、親父が
語りかけてくれるよ
うで、ついホロリと流
れました。いつかどこ
かで難波先生のお話
が聞ける講演会などが
予定されてませんか？
あればぜひとも教え
てください」というこ
とで、実は早速、講演
会のご案内をしてもい

いでしようか？ あさ
つて日曜日に予定され
ている。

難波 そうです。こ
れは、相談ネットワー
クの21周年目の総会と
みんながワイワイ・ガ
ヤガヤお話ししようと
いうことで、フリース

ペースあがね」のお母
さん方や、不登校を体
験した子どもたちで元
気になった子どもたち
がギター演奏してくれ
たり、それから、先生
方のOB・OGの人た
ちがいろんな提案をし
て、みんなでその話題
提供をもとに
して、ワイワ
イ・ガヤガヤ
お話をして、
いい気持ちに
なつて帰ろう
というのが目
的で、西大寺
の公民館で28
日の9時半か
らやる予定に
してあります。
——あさつて
日曜日の午前
9時半から、

西大寺公民館で…、こ
れはどなたでも？

難波 はい、どなた
がおいでになつてもよ
ろしいわけで、みなさ
ん帰りがけには「ああ
来てよかった」と思っ
て帰ってくださいね、
一日だけでもいい気持
ちでおれるのではない
か、元気が出るのでは
ないか、そう思つてま
す。

——そうですか。ぜひ
みなさんにもお出かけ
いただきましょう。あ
さつて日曜日、朝9時
半から西大寺公民館
で、「ワイワイ ガヤガ
ヤ」。

難波 はい、「ワイワ
イ ガヤガヤ」です。

CM ニュース



2010年11月28日 西大寺公民館にて

「僕は、仙台市の少年の死刑の判決は当然だと思っていました。ですが、難波先生のおっしゃっておられているとおり、『仙台市の少年も立ち直る可能性がある』。もつとも思っています。安兵衛さんから、少年の生い立ちなど、改めて聞かされると、一般の裁判員のみなさんにとつては、これはなかなか大変な判断を迫られたということにもなるように、今のニュースの中にも裁判員を勧めた男性は、「怖かった」。その後一生、悩みつづけるという思いを吐露されていますねえ。

難波 そうですねえ。自分が死刑に手を貸したということになりますしねえ。立ち直る可能性を全面的に否定してしまつたわけですから。そこどころが、一番大きな問題ではないかなあと感じますねえ。

—でも、やはり犯した犯罪というのは、とんでもないことであるということと…。

難波 そうです。それはもうあくまでも罪として償つていくことが大事だと思ひますし、その償う方法というのが、死ぬことで償うことになるのか、それとも生きて自分が償う方法をどう考えていくのか、そちらの選択だつてあるだろうと思ひますねえ。

—アメリカなどで例えば、この刑に

関しては何十年、この刑に關しては何十年、トータルするともう百年を超えるような判決が出たりしますよね。

難波 私も、そういう考え方に賛成ですねえ。生きて辱めを受けるとは…、というのは武士の考え方としてあると思うんですけれど、生かして立ち直ることを考えさせる、そしてそれが人間の持つ可能性だし、人間をそこまで信頼してやることというのがいるだろうと思ひますし、とりわけ、私もまだ今朝の新聞をよく読んでおりませんけれど、家庭歴がいろいろあるようです。その部分をしっかりと洗いながら、どう立ち直らせるかと

いう科学的な方法をいろいろ考えてやることも大事ではないかと思ひますねえ。

—子どもの頃に「もう、しません。ごめんなさい」というのをしっかりと認識させるといふのは、とても大事だと教わつたことがあります。例えは「百叩き」なんていう刑が昔あったように聞いてます。それはもう二度としないといふのを体感覚えさせるんだという意味があつたと…。この「もうしません。ごめんなさい」というのをきつちりというのには、これは家庭でもとても大事な躰の一つかもしれないですねえ。

難波 そうですねえ。ただ、それが暴力

につながるようなことであつてもいけないし、自分の中でそれをどう身につけていくか、そのことで嘘をつく子どもにもなつてはいけませんしね。繰り返して繰り返してやることで、先生方の中には「何でそんなことを何回もするんだ」。だんだんだんだん嘘をつく子になつていく可能性だつてあるわけですし、ですから、そのところは子どもとの心の交換というのがものすごく大事だろうと思ひますねえ。

—はい、よく分かりました。ちよつと「コーシヤル」をはさんで、さらにお話しを伺います。

(つづく)

つながる ちがいに

つばやき①(昨年6月末記)に書いた講師1年目のA先生、今も悩みながら、しかし、毎日、地道な努力を続けている。

1月下旬、A先生に教育実践の本を紹介した(学級の子どもたちが、先生を信頼してついていっていることや、学級の雰囲気がよくなっているなあと思うことなどをメモ書きしたのも添えて)。



その時のA先生の返事の手紙には「この前は本を貸していただき、ありがとうございます。少しずつですが読ませてもらっています。そして、本に貼ってあったメモも嬉しくて励みになつています。3学期も残りわずか。あの子どもたちと一緒に過ごす期間を考えるとさびしいなあ……。という思いでいつぱいです。少しそんな気持ちになるのも早い気がします。いつもクラスのことを見てもらってありがとうございます。心強いです。これからもよろしくお願ひします」と。

1学期は、しんどい毎日が続き、「私は教師に向いていないのだろうか。続くだろうか」と、涙を浮かべながらこぼすこともあった。このしんどい気持ちには年配のI先生にも、保健の先生にも話していたようだ。しかし、この時期、しんどさを言葉に出して言える人がまわりにいたから、乗り越えられたのだとも思える。

2学期は、大きな行事が続ぎ、毎日それをこなしていくだけに追われていたようだ。しかも、十分消化できず、やり残しや途中やめになることもあり、成果が見られるまではいかずにいたようだ。自分で工夫して作ったかけ算九九のがんばりカードも途中でストップしていた。「どうしていいか、自分でも分からない」と、本人もこぼしていた。そこで、このかけ算九九が

んばりカードを全員達成させることに取り組むことにより、これを突破口にして、また次の何が考えて来るのではないかと私は考え、「一緒に取り組みましょう」とA先生によびかけた。

一人ひとりに目を向けて、子どもたちのがんばりに声をかけるかけ算九九の練習は、A先生だけでなく、子どもたちにも変化があらわれた。ど

が、理解できていたのではな
いかと、一緒に取り組むなか
で感じられた。

3学期になると、子どもた
ちも落ち着いて学習をするよ
うになってきた。A先生も授
業のスタイルがかなり確立し
て、1時間の授業をうまくま
とめることができるようになって
きた。しかも、決して子
どもを追い立てたり、管理し
たりしなげで学習を進めよう
としていた。ふと机の上に置
いてあるA先生の指導のため
のノートに目をやると、その
ノートの指導メモや指導案が
びっしりと貼られていたた
め、分厚く膨らんでいたのだ
がある。それを見て、毎日毎
日、地道な努力を続けたこと
が、今の教育実践となって現
れていることが分かった。
A先生が、1年間、教師と
いう仕事を続けてこられたの
はなぜだろうか。

もちろん、A先生の能力、
資質、努力があったからであ
ろう。それプラス何かあったの
だろう。それは、職場の中に
つながる関係、よりそう関係
があったからではないだろう
か。だから、どんなにつまら
ないやな出
来事があっ
ても、乗り
越えていく
ことができ
たのではな
いだろう
か。

と失いそうになる。相手をメ
リットやデメリットという条
件で選ぼうとする傾向が強い
今、だからこそ今ここに共に
いる喜びを味わえるような人
と人との関係づくりが求めら
れていると思う。

ネットワーキングの一相談員で
ある私は、とても大きなもの
をA先生から学ばせてもらっ
たと思っている。そして、こ
れからのネットワーキングの相談
活動に生かさせていきたいと思
っている。

メール相談

相談は、電話(086-226-0110)や面接のほかにも、
メールでも受け付けています。

「相談ネットワーク 上之町ビル」で検索すると、ネ
ットワークのホームページが開きます。

子育て・教育なんでも相談ネットワーク
〒700-0622 岡山県東区1-4-6* 上之町ビル3F
TEL/FAX 086-226-0110
http://www6.ocn.ne.jp/soudan/

育児に迷って、不安に悩んでいませんか
子どもさんの不登校や引きこもりで悩んでいませんか
非行・問題行動・遅延帰国等で相談するところを探していませんか
学校が学校でなく、ご家庭に……どんな悩みをされた方もおられませんか

「子育て・教育なんでも相談ネットワーク」(通称 相談ネットワーク)は、個人会員(約500人)と
いくつかの団体(岡山コープ・監理生協・高教組・市職労)など40団体の支援によって、1990年7月
発足した市民の相談機関です。
以下のような活動をしています。

相談・電話相談
曜日……月曜日～金曜日
時間……10:00～15:00
TEL……086-226-0110

メールでの相談もできます アドレス soudan-net@virid.ocn.ne.jp

会報
「相談ネットワーク通信」を発行しています。№67まで発行しました。
なお、№63までは電子になっています。
ご希望の方は電話、メール等でご連絡ください。

講演会・学習会
毎年、講演会が学習会をしています。
講師の先生は、大学の先生などそれぞれの専門分野で活躍されておられる方です。

「メールでの相談もできます アドレス soudan…」
をクリックすると、相談ネットワークのメールとリンク
していますので、ご利用ください。お待ちしております。

「こころの問題」考

—東日本大震災・沖縄戦とのかかわりで—

安東 誠

1 「共感」を超える「同感」

「救命 東日本大震災・医師たちの苦闘」(海堂 尊監修)は、未曾有の大震災・原発事故に遭遇した被災地で医療活動に献身する医師たちの姿を伝える感動的な記録である。この書物のなかに、夫婦で一時避難所暮らしに耐えながら不眠不休で医療活動にあたる精神科医の痛切な吐懐がある。

コップの水も味噌汁も風呂など、水と一口の水をすべて拒絶する老婆をはじめ、災害の衝撃を受けた数多くの人々の

回復のために苦闘する医師のことば。従来、精神科医として患者に「共感」しようとしてきた。しかし今は、「共感」ではなく「同感」したい。悲惨な患者と同じように感じている医師として一緒に泣く方を選ぶ。と、「受容」と「共感」は、カウンセリングの原理としても大切である。「受容」は自分の評価や判断を押しつけることなくクライアントの話を深い関心をもって聞こうとする態度であり、「共感」は、クライアントの立場に立ち相手の気持ちに即して同じように感じると、クライ

アントになりきって苦悩・悲しみ・葛藤を感じとる態度である。この医師の「同感」は、普通の意味の「同じように感じる」ではなく、カウンセリングの原理としての「共感」よりも質的に高い感性を意味しているのではないだろうか。

東日本大震災から10ヶ月以上経過したが「震災関連自殺」の問題が深刻である。被災後4ヶ月で38人に上り、後を絶たない、自殺の心配のある人々は予測しがたいといわれている。被災者のこころのケアのために個別訪問を続け

ている保健師の話によると、被災者の喪失体験は個人別に違っており一人ひとりに寄り添って信頼関係を深め、こころの底にあるものを「聞ききる」ことが特に大事であると、いう。まさに、「共感」を超えた「同感」の感性が要求されているわけである。今一つ大きな問題は、大震災や原発事故による悲惨な衝撃だけが「地震関連自殺」の原因ではなく、被災後の生活不守が原因になっている人々が多いことが事態を深刻にしている。盛岡市では、NPOが失業や借金などの相談に応じる「パーソナルサポート」伴走型支援」に取り組んでいるが、NPOとしての「救命」活動であつて行政としての取り組みではない。被災者のいのかかわる問題で行政の施策がこのような現実なのである。さらに、原発事故の汚

(11面のつぎ)

明によって、社会全般の中で患者に対する理解や支援が深まってほしい。全国の戦争被害者や東日本大震災で被災した方の心の救済にも役立てていきたい」と言っている。

PTSD(心的外傷性精神障がい)は、戦争、生死にかかわる災害・事故などへの遭遇、ひどいいじめや虐待、殺人の目撃などの衝撃的な体験が原因で、体験後すぐにあるいは一定期間の後に発現する精神的障がいである。これが一般的な説明であるが、60年以上たつてから高齢者に発現するなどは心療内科医たちにとっても予測しがたいことだったのであろうか。60年以上といえは、広島・長崎で被爆してここに深い傷を負ったまま放置され、今もなお救済を要求して裁判をたたかっ

いる人々がいる。

アジア・太平洋戦争中の被爆体験をはじめとする悲惨な戦争体験、阪神・淡路大震災・新潟中越地震など数多くの震災その他の衝撃的な体験でPTSDだけでなくこの救済が必要な人は数え切れないだろう。蜂塚医師は、沖縄戦にかかわって精神医学的な考察がなされてこなかったと語っているが、一般的に国家施策としての精神医学的考察はされてこなかったのではない。阪神・淡路大震災の被災者の孤独死の問題が大きなくローズアップされたが、心的ケアの公的研究・支援体制が確立されたとは聞かない。先に、東日本大震災の被災地の一部地域にみられるこのころのケアの取り組みについて述べたが、どこから経験を学んだかといえは、新潟中越地震の被災者のこのころのケア



センターからという。阪神・淡路大震災の場合、復興の基本計画は自己責任主義が前提で、個人補償をはじめとして個人に対する公的支援はなおざりにされてきた。鳥取地震でこの点での改善がみられたが、新潟県長岡市のこのころのケアセンターもその一環であらう。東日本大震災の被災者で、両親を亡くした子どもたちをはじめこのころのケアの必要を人々は膨大な数である。すべての医療体制の確立は緊急な課題であるが、医療体制のなかで遅れが大きい心療内科・外科の体制、さらにはこのころの相談の体制の確立が特別に重要であり急務ではないか。(あんど まこと)

な んと岡山の子どもたちは暴力、不登校、いじめなどで最悪という烙印を押されました。

な んでこうなのでしようか。「子どもの権利条約」ではとくにその原因と解決策を明らかにしています。

く るしんでいるのです。子どもたちは、社会・学校にムカツキ、家庭にイラだっています。

さ インをたえず送っているのです。それを見落さず、子どもたちにしつかりと寄りそいながら、今年も活動をつづけます。

(N)



染問題で子どもを育てることが不安で、地域の人々への挨拶もし辛く、子どもの学校のお別れもしないで移住せざるを得なかった家族が「裏切り者」だけでなく、「非国民」呼ばわりされた体験を訴えている。そのような厳しい現実がある。以上のような問題意識からすると、「がんばれ日本」という一大キャンペーンについて批判的な見方がいるのではないか。「がんばれ、がんばれ」と励ましてもらうのはありがたいが、苦しみ・もたえ・頑張り尽くしたわたしたちの精神的な苦痛を分かかってほしい。声高ではないが悲痛の思いが込められている。善意の励ましのことはであつても、苦悩の極限状況に立たされた人々にとつては逆に大きな一要因になる。

二つ目は、「がんばれ日本」を逆用した被災地を「復興市場」として利潤を追求しようとする財界の企図である。政府の復興政策はそれをうけて、新自由主義の市場原理とそのキーワードとしての自己責任論が基本にすえられている。「水産特区」はその具体化。被災地の漁業組合をはじめとする広範な人々の強力な抵抗があつて、ゴリ押しのできない状況に立たされている。しかし、宮城県では自力で復興にむけて懸命にがんばつている漁業者の願いに配慮するのではなく、数少ない復興重点漁港を設定して施策をすすめようとしている。油断のない状況である。さらに、農林水産業に壊滅的打撃が不可避といわれるTPP参加にむけて動きだしている。「がんばれ日本」の呼びかけは、被災者の生活再建に直接結びつくものでなくてはならない。しかし、財界・行政の動向が

らすれば「がんばれ日本」は国民的精神総動員になりかねない危惧をもつ。

2 沖縄戦・66年後のPTSD発現

昨年・11月5日、「沖縄戦・精神保健研究会」主催の市民講座「沖縄戦のこころの傷を追つて」が開かれた。この講座での沖縄協同病院心療内科の蜂塚医師の研究報告は注目される。先ず、「沖縄戦は戦後66年間、地上戦の惨状や戦後も長く占領状態などに重点がおかれ、精神医学的考察はしてこなかった」と指摘する。

その上で、通院患者の症例がいくつか報告されているが、ここでは2症例だけ紹介する。晩発性PTSDの70歳男性。5歳の時、母に背負われて逃げるが、母は射殺される。母の背中にくぐられたまま一晩中泥の中で泣いた、戦

争孤児。60歳前後から不眠傾向になり、不安や恐怖の症状が出現する。***外傷性悲嘆**による不眠・抑うつ症状。80歳女性。14歳の時に戦火のなか、姉と祖母を亡くす。息子が2年前に亡くなつてから、戦争中の記憶と死体のうじ虫、人間の生肉の臭いを思い出す。

蜂塚医師は、沖縄戦PTSDの特徴として、①戦時の暴力的な死別体験が、その後の近親者の死を機に外傷性悲嘆を誘発し抑うつ症状を生む。

②戦争トラウマによる不眠・パニック障がい、身体的障がい。③日本軍による人格侮辱と破壊。④養育貧困などを通じた世代的伝達。⑤精神的ケアがなく傷口が放置されている。などを挙げている。蜂塚医師は、「沖縄戦PTSDの解

(12面につづく)

(11面のつづき)

明によって、社会全般の中で患者に対する理解や支援が深まってほしい。全国で戦争被害者や東日本大震災で被災した方の心の救済にも役立てていきたい」と言っている。

PTSD(心的外傷性精神障がい)は、戦争、生死にかかわる災害・事故などへの遭遇、ひどいいじめや虐待、殺人の目撃などの衝撃的な体験が原因で、体験後すぐにあるいは一定期間の後に発現する精神的障がいである。これが一般的な説明であるが、60年以上たつてから高齢者に発現するなどは心療内科医たちにとっても予測しがたいことだったのだろうか。60年以上といえ、広島・長崎で被爆してここに深い傷を負ったまま放置され、今もなお救済を要求して裁判をたたかって

いる人々がいる。

アジア・太平洋戦争中の被爆体験をはじめとする悲惨な戦争体験、阪神・淡路大震災・新潟中越地震など数多くの震災その他の衝撃的な体験でPTSDだけでなくこの救済が必要な人は数え切れないだろう。蜂塚医師は、沖縄戦にかかわって精神医学的な考察がなされてこなかったと語っているが、一般的に国家施策としての精神医学的考察はされてこなかったのではない。阪神・淡路大震災の被災者の孤独死の問題が大きいくローズアップされたが、心的ケアの公的研究・支援体制が確立されたとは聞かない。先に、東日本大震災の被災地の一部地域にみられるところのケアの取り組みについて述べたが、どこから経験を学んだかといえ、新潟中越地震の被災者のところのケア



センターからという。阪神・淡路大震災の場合、復興の基本計画は自己責任主義が前提で、個人補償をはじめとして個人に対する公的支援はなおざりにされてきた。鳥取地震でこの点での改善がみられたが、新潟県長岡市のところのケアセンターもその一環であらう。東日本大震災の被災者で、両親を亡くした子どもたちをはじめところのケアの必要な人々は膨大な数であろう。すべての医療体制の確立は緊急な課題であるが、医療体制のなかで遅れが大きい心療内科・外科の体制、さらにところの相談の体制の確立が特別に重要であり急務ではないか。(あんどまこと)

な んと岡山の子どもたちは暴力、不登校、いじめなどで最悪という烙印を押されました。

な んでこうなのでしようか。「子どもの権利条約」ではとくにその原因と解決策を明らかにしています。

く るしんではいるのです。子どもたちは、社会・学校にムカツキ、家庭にイラだっています。

さ インをたえず送っているのです。それを見落さず、子どもたちにしつかりと寄りそいながら、今年も活動をつづけます。

(N)

